

令和4年度 自己評価結果とりまとめ

1, 評価項目の達成および取り組み状況		つくしんぼ保育所
評価項目	取り組み状況	
I、保育の計画性	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢に合った目的に沿った計画を立てていく。 ・出来るだけ季節に応じ子どもたちに合った内容で計画を立てていく。 ・一人ひとりの発達段階を把握し、安全で安心できる環境設定する。 	
II、保育のあり方、幼児への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・担任だけでなく、他クラスの保育士とも情報を共有して同じように子どもと関わられるようにする。 ・個々に保護者への対応を考え保護者支援等考えながら対応していく。 ・身につけて欲しい生活習慣を保育する。 	
III、保育者としての資質や力・良識・適正	<ul style="list-style-type: none"> ・明るく声かけをし、温かい雰囲気でするようにする。子どもたちが安心できるような保育に努める。また、子ども一人ひとりの発達や特性に合わせて対応し、安心して保育所で過ごせるように配慮する。 	
IV、保護者への対応・守秘義務	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの成長を共に喜び、寄り添える存在となれるよう努める。 ・子どもの園での様子を話す（情報の発信をまめに行う）、批判や意見については特に慎重に対応する。 	
V、地域の自然や社会とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・散歩や公園へ行った時、地域の方へ挨拶をしたり話をしたりして関わりをもつ。 ・コロナ禍でなかなか地域との関わりが難しいが、高齢者の方たちにプレゼントを持って行ったりする機会を作る。 	
VI、保育者の専門性に関する研修・研究への意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・研修等行くことで、他の保育園からの情報を得て、自園の良さを感じると共に、改善すべきところはしていく。 ・支援を必要とする子どもへの対応の専門性を高める研修や、過去の研修を見返し、自分自身でもスキルアップの勉強に努める。 	
VII、保育のあり方、3歳未満児への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの子どもの思いをきちんと受け止めて、保育する。 ・担当を決めてできるだけ一定の保育士が関わることで子どもの情緒の安定を図ったり、生活面での個々に合わせた対応が出来るようにしている。 ・子ども一人ひとりとスキンシップを取り、信頼関係を築けるようにする。 ・登所時、一人ひとりの体調や視診をし、担任と連携をとり体調の変化や小さなサインに気がつけるように努める。 	
VIII、地域における子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回、絵本の読み聞かせに来て頂く。 ・散歩時には地域の方と挨拶をして話し掛けてもらったり、手を振り返したり関わりをもつ。 	
IX、食育の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・配膳時、子どもの食べられる量に合わせて適量を決めて様子を見ながら配膳する。 ・夏野菜や冬野菜を植えて収穫する喜びや食べる楽しさを体験する。 ・離乳食が進むにつれて、食への興味を持って食べる楽しさを感じられるように援助していく。 	

2, これから改善したいこと

つくしんぼ保育所

評価項目	具体的な取り組み
I、保育の計画性	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりで悩まずクラス全体で話し合い保育計画を立てる事ができた。 一人ひとりの子どもに合わせて指導していく大切さを実感しているが、工夫すべき点を見つけていく。 異年齢の幼児との交流の場が感染症等を理由に少なかった為、落ち着く予定の次年度からはもう少し交流を取り入れた保育や環境構成をしていく。
II、保育のあり方、幼児への対応	<ul style="list-style-type: none"> 急がせるような言葉掛けに注意して気をつけていきたい。 保育中の子どもの体調の変化に気づき対応することができた。 保育士の声かけの基本をしっかりと確認し、子どもたちの自己肯定感を育むように取り組んだ。 5歳児の11月くらいから小学校と関わりを深め小学校生活へ安心して移行し、自分を表現できるように保育した。
III、保育者としての資質や力・良識・適正	<ul style="list-style-type: none"> 研修等で学んだ事を保育に取り入れ実践することで反省や成果など感じる事ができた。 挨拶は明るくするよう心がけ、温かい雰囲気を持てるようにしている。 わからないところや自分では難しい所などを素直に教えてもらったり、意見交換し、保育の質を向上させるべく努めていった。
IV、保護者への対応・守秘義務	<ul style="list-style-type: none"> 保護者から得た情報等、守秘義務のあるものは全職員で共有し、プライバシーは一切公害はしないようにした。 送迎時、朝の連絡票に書かれている方と違う場合は変更等連絡して頂けるようお願いしていく。
V、地域の自然や社会とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> 敬老の日クリスマスなど高齢者の施設や地域の方々にお守りやリースを届けた。 感染症により、地域との関わりが少なくなった。毎日の散歩等で出会う地域の方に挨拶をしたり、話したりして関わりを持っていく。 散歩では地域の方に明るく挨拶するよう心がけた。
VI、保育者の専門性に関する研修・研究への意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は園内研修で言葉の話が職員全体で共有できた。 キャリアアップ研修や言葉についての研修を受けさせて頂き、とてもよく理解することができた。今後の保育に活かしたい。 研修に参加し、各園所での様子を知ることができたと共に意見交換をして交流することができた。 研修会で学んだ事を他の職員へもっと会議等で持ち上げ、共有できる機会を持てるようにしたい。
VII、保育のあり方、3歳未満児への対応	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの発達課題について見通しを持って保育していく。 担当保育士が関わることで安心して保育所生活を過ごすことができるようにしていく。また、担当保育士がいない日でも安定した保育ができるように保育士同士で連携をとる。 その子のありのままの姿をしっかりと受け止め、信頼関係を築き、心のよりどころになれるよう努めた。 体調等個人差が大きいのでその子の状態を保育士同士で共有し、保護者に伝えられるようにする。
VIII、地域における子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> 子育て支援のことを職員全員が理解する。クラスに入ると利用者と触れ合う機会が持てない。 ホットステーションを快適に利用できる様に掃除などをして環境を整えた。 一時保育が感染症で中断となっているが、受け入れが始まった際にしっかりと対応できるようにしたい。
IX、食育の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 職員で連携、共通理解し、離乳食をすすめていった。 夏野菜と冬野菜の苗をうえる。 畑に野菜を植えたが、日々の水やりや観察などは5歳児が中心となっていたが成長観察や収穫なども見せていなかったので反省。 クッキングなど、コロナ禍でも少しずつ食材に触れる機会が戻ってきた。 段々と自己主張が強くなり、好き嫌いが激しくなっていたが、保育士も諦めるのではなく、一口でも口にするとところから達成感を味わってもらえるようにと努めた。